

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970101618		
法人名	社会福祉法人 てくとこ会		
事業所名	グループホーム 南十字星		
所在地	高知市種崎593		
自己評価作成日	平成24年7月30日	評価結果 市町村受理日	平成24年10月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ご利用者様一人一人に応じた役割の抽出が出来るように取り組んでいます
- ・ご利用者様一人一人の行きたい所などを抽出し直ぐに対応できる範囲は直ぐに対応し、遠出などに関しては可能な限り叶えられるような取り組みを行っています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3970101618-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3970101618-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成24年9月14日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の内部に教育委員会を設置し、月1回会合を開いて、各事業所の人材育成に力を注いでいる。当事業所では管理者を中心に、理念に照らした業務の改善や、利用者一人ひとりのケアに力点を置いた取り組みと振り返りが行われている。3年ほど前から利用者の散歩に力を入れ、地域との交わりを深めるように努めている。町内会に加入して各種行事や清掃活動に積極的に参加し、その結果、事業所の認知度や評価も上がってきている。また、隣地に公園ができ、今後の地域交流の場所として活用が期待される。敷地内の畑では、1階の障害者就労支援施設が野菜を作っているが、利用者もそれを手伝い、近隣の方から助言をもらうなど交流が進んでいる。事業所の個別ケア重視の方針のもとに、利用者の思いを把握し、外出の希望があれば思い出の場所や行ってみたい場所へ、県内外を問わず可能な範囲で遠方まで出かけている。職員一丸となって、ケアの改善に日々取り組んでおり、今後の成果が期待される事業所である。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: 十字星

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を素に日々のミーティング、施設内研修会などで実際のケアに活かせるように共有し実施出来るようにしています。	4項目の基本理念それぞれに具体的方針を定め、内部研修の機会に振り返りを行っている。特に事業所での安心感のある暮らしの実現に向けて、日々のケアを考え、実践に努めている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会させて頂き、地区での毎月の清掃活動やお祭りなどのイベント・地区の防災委員会などの集まりにも参加させて頂き対話や交流が深まるようにしています。また、運営推進会議には民生委員に参加してもらい意見をお伺いしています。	町内会の行事等に積極的に参加したり、地区周辺の散歩に力を入れ、顔なじみを増やしたり、実習生を多く受け入れたりして事業所の認知度を上げ、地域からは事業所運営が改善しているとの評価を得ている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	清掃活動、畠の栽培等には可能な利用者も共に参加させて頂き、利用者が地区の方と会話出来るように支援しています。施設内でのイベント時に大正琴などの披露の場を設けています。地区の防災会議に定期的に出席しています。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営の状況や入居者の近況などを報告し、参加している市職員・民生委員・地区代表・ご家族様から意見をもらい日々のケアに活かしています。代表者や代理が必ず参加し、運営上の問題点等も報告しています。なお、ご家族様には後日議事録を送付しています。	議事録は項目が整理され、理解しやすい工夫がされている。「利用者が運営の基本」という考えから、会議に参加してもらい、委員は利用者として接することで事業所の状況が把握できている。地区代表や家族とは活発な意見交換があり、地域に開かれた事業所という理念を運営推進会議で実践している。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難ケース等は施設内で解決しようとせず適宜関係機関に連絡し相談、アドバイスを頂いています。今年度は介護保険課や各関係機関以外に成年後見人サポートセンターへの相談もさせて頂きました。	市の介護保険課や関係機関には、事業所単独では解決できない困難事例や制度的な疑問点があればすぐに相談しており、日常的な関係が築かれている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設外の研修には順次可能な限りの参加しています。施設内勉強会にて以前作成したパワーポイントを適宜活用しながら職員に講師になってもらい発表をする研修なども取り入れています。	内部に虐待・身体拘束防止委員会を設置し、月1回委員会を開き事例検討などを行っている。運営規程には身体拘束をしない旨を明記し、利用者に寄り添い、観察をしながら対応する姿勢に努めている。外出傾向のある利用者には1階の施設とも連携し、見守り、同行する支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会には順次参加しています。施設内研修会などで事例検討会やパワーポイントを活用したりして虐待に繋がらないような支援を目指し研修を行っています。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については現在対象となる利用者がいらず実践を通して学んでいます。職員には事例をもとに必要性や手続きについて説明しました。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の目的や内容、解約・賠償責任・緊急対応などを分かりやすく理解出来るよう説明を行い、理解していただいた上で同意を得るようにしています。また、随時質問などを受けた際には再度分かりやすく説明しております。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を適宜開催、面会時などに積極的に職員から話し掛け、頂いた意見などに関しては適宜職員に伝達し改善に向けて具体的な取り組みとして運営を行うようにしています。運営会に参加されなかった家族には後日議事録を送付しています。面会時に閲覧できるように議事録を入りに貼りだしています。直接言い難い家族・入居者のためにユニット入り口にはご意見箱を設置しています。	運営推進会議に利用者、家族に参加してもらい、意見が出せる場を設定している。また、家族はほぼ全員が月1回、約半数が週1回ほど面会に訪れており、その際に言いやすい雰囲気工夫して率直な意見を聞き、運営に反映するようにしている。意見箱への投かんはまだないが、たまに電話での苦情があり、申し出を聞いて、ケアプランに反映した事例がある。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや業務委員会などで検討しています。また、適宜職員からは個別に意見交換ができるように日々コミュニケーションを図るように努めています。	業務改善委員会を月1回開催し、意見や提案を聞いている。提案があれば企画書を提出してもらい、一緒に検討する中で、職員にも気づきを与えるようにしている。また、日常のケアの中で、個別に意見を聞いている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者として就任以来、法人全体で給与水準を見直し、適正化のため南十字星の給与を上げ、また介護福祉士を中心に正職員化を行ってきた。労働時間についても夜勤時間の改正ややりがいのある職場作りを行ってきた。また全職員の面接等を通して勤務状況を把握し、人事評価体制確立に向けて努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2年前から職員個々人がパワーポイントで見学者や実習生に職場の紹介や事業の特色を説明できるように育ててきた。その上で法人内の研修は今年から南十字星も含めて、教育委員を作り毎月の研修体制になった。また法人外の研修も従来の必要な研修のみの体制から、力量のアップや向上心をもてるような研修への参加を促した。その上でのオンジョブトレーニングに努めている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部地域グループホーム連絡会のメンバーである近隣のグループホームと連携をとり見学者の受入れや意見交換・情報交換の場を立ち上げています。介護だけでなく医療機関との連携もとり見学の受入れや情報・意見交換などを行っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時より、入居者様に分かりやすく説明を行い、ご本人の意向をしっかりと受け止め要望に沿って生活ができるよう話し合い信頼関係を深めるようにしています。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回時より充分時間をとり今後の関係性を深める努力をしています。入居者本人のみならず他の家族の事も出来る範囲で相談にのり可能な限り家族の悩みが軽減できるよう努めています。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にはその内容を見極め緊急性のある事柄については早急に関係機関との連携をとるようにしています。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と共に料理をしたり、洗濯物をたたんだり何らかの役割をもっていただき、「共に暮らす」という考え方にに基づき介護のみを提供する施設ではないようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態について連絡・報告し話し合いを行い家族様への協力も依頼し共に支えあうように支援しています。イベントへの参加や外泊などもお願いしています。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員からの提案による外出だけでなく、本人の生活歴や希望に由来した外出支援を行っています。	利用者の思いに、できるだけ沿うようにしている。出身の遠方の町村に出かけて、地元の方に歓迎されたり、見たい映画を見に行ったり、温泉に関心のある利用者には県外の温泉地に行ったりして思いを満たし、交流ができる取り組みをしている。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の入居者同士が共に会話したり一緒に過ごせる場の提供などを行い、間をとりもつ支援などを行っています。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時に戻れなくなった方の復帰については待機待ちの最優先位にする可能性を探ったり、身寄りのない方については精一杯フォロー・支援を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞くようにしています。言語でのコミュニケーションが出来ない方に対しては表情やしぐさなどにも目配りしています。また、生活の中で聞きえた意向などは可能な限り実現できるような話し合いを行っています。	その人らしさを大切にするという理念に沿い、会話のできる利用者には聞き取りをしている。聞き取りは、利用者との気の合う職員が対応し、話しやすい雰囲気を作っている。会話がうまくできない利用者には、表情や動作を観察し、意向をくみ取るよう努めている。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や主治医など関わる方からの情報だけでなく日常生活の中から出てきた言葉などからも情報を重々し職員が共有できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	マニュアル化されたような日常生活ではなく本人の体調や思いにあわせた過ごし方が提供できるように総合的に本人の能力を分析・評価できるように努めています。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題分析は職員全体から情報収集を行うと共に家族・本人からも意見を聞き計画を立てています。また、定期的のみに検討するのではなく入居者の心身の変化に伴い適宜計画の見直しをしています。	担当者会で利用者の情報を収集し、家族も参加して意見をもらい、話し合いながら介護計画を作成している。3か月ごとに見直しを行い、その間も状態に留意し、変化に応じて計画を変更している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア内容に添って実施し具体的に客観的にありのまま記録に残し継続した介護が適切に出来るようにしています。また、気づきや工夫などはその都度話し合い、継続して実施する事で状態の改善に繋がるようにしています。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望や入居者の状態により病院受診は職員が同伴しています。介護保険の代行や家族には分かり難い手続きの際には助言したり代行可能なものに関して希望があれば代行しています。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園や町内会・防災会などと連携を密にし地区活動に参加しています。津波時の避難場所として地域にも認識され、昨年の東日本大震災時の避難警報が流れた際には保育園児以外にも地域住民の方が避難してきていました。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診などの際には出きる限り職員同行しており、主治医に申し出たいことがある場合には時として窓口になり希望を伝えるようにしています。また、同行しない受診に関しては日々の状態を手紙などに記載し主治医と施設が関係が取れ本人にとり適切な医療が受けられるように努めています。	本人、家族の要望に沿い、希望の医療機関に職員が同行して受診している。内科は協力医療機関から往診があり、それを利用する機会が多いが、その他の診療は従来のそれぞれのかかりつけ医に職員が窓口になって対応し、受診が継続されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護のみならず、月曜日から金曜日までは看護師を雇い入れしています。夜間急変時には提携病院・訪問看護・当施設看護師のいずれかに連絡できる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期発見・治療に努め入院時にも早期退院が出来るように常に情報交換を行える体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明をしていますが、想定される場合には再度説明を行い同意を得るようにしています。終末期での状態によっては協力病院以外でも家族の希望にあわせ連携を取れるように努めています。	まだ事業所で看取りを行った事例はないが、重度化の方針に沿った対応を心がけている。家族とは面会時に話し合い、方針の説明と、希望を聞くことにしている。かかりつけ医との連携や近隣の医療機関との体制を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを配備し適宜目を通すように周知しています。また、施設外での勉強会などにも積極的に参加させてもらい、施設内でも周知できるように努めています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定期的に行っています。マニュアルも配備しており適宜目を通すように周知しています。また、運営推進会議などで防災の話をし民生委員や地区代表の方から災害時の協力体制などについても話をしています	年2回、火災の自主訓練と消防署による訓練を実施している。事業所が津波の避難ビルに指定されており、地域に参加を呼び掛け、地震避難訓練を予定している。また、地区の防災訓練にも参加し、地域との協力関係を築くようにしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格・尊厳・プライバシーに配慮したケアを実施しています。朝のミーティングや担当者会議以外にも職員間で振り返りが出来るようにしてその都度話し合い同質のケアが提供できるようにしています。	理念にある「その人らしさ」を尊重したケアになるよう、職員間で注意しあいながら取り組んでいる。特に多忙な時の声かけに注意し、呼称の改善やトイレ、入浴時の介助の改善のほか、職員の意識の確認等の取り組みがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉による表出のみならず表情や態度のようなノンバーバルによる表出に留意し本人の思いや希望をケアに組み入れるように取り組んでいます		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設や職員の都合に合わせたケアの提供ではなく個性を重視し本人のペースに合わせた柔軟な対応を優先しケアを提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の購入時には家族の意見だけでなく可能な限り本人と一緒に購入しに行くようにしています。散髪は外部からの訪問であるが、美容院で行いたい場合には美容院まで行くようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	過去の経験を生かし調理や味付けなど本人の出来る部分を職員と共に行っています。本人の希望があれば外食も積極的に行っています。	過去に栄養士が作成した献立表を工夫しながら、管理者が献立し職員が調理している。食材は近所の食料品店から一括して配達がある。昼食は利用者の希望を取り入れている。また、利用者の希望で回転寿司などの外食へも出かけている。	食事は、生活の重要な部分でもあり、献立内容を利用者の意見も取り入れながら見直し、利用者も参加した食事づくりなど、より家庭的なつながりを持った食事となることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合わせてロミや刻み食など柔軟に対応しています。また、利用者の希望なども積極的にメニューに取り入れるようにしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアに加え、定期的な歯科の往診を受け診断、治療、アドバイスを貰うようにしています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、チェック表を用いて観察・記録しています。日中は出来るだけトイレで排泄しオムツを着用しないよう支援しています	排泄チェック表を使用して、一人一人を観察しトイレ誘導を行っている。リハビリパンツから、布パンツに移行した利用者もあり、排泄の自立に向けて継続的に支援している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	精神科薬の副作用がある事も認識し下剤を全て抜薬する対応はとらず一人ひとりの状態に合わせて飲食物、運動のみでの対応の可否について検討しています。場合によっては医療機関への交渉や相談を行っています		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意思に沿って入浴支援を行っています。入浴時間や毎日入浴も可能な限り柔軟に対応しています	基本的には午後入浴だが、時間帯を決めずに入浴してもらっている。希望があれば午後9時まで入浴は可能である。利用者の大半は2～3日に1度は入浴している。入浴を拒否する利用者には浴槽(檜)を見てもらったり、気の合う職員から声かけして誘導している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のその日の体調・状態・希望にあわせて休息を取ってもらっています。夜間帯の中途覚醒にも直ぐに再入床を促すのではなく必要に応じて飲み物を出すなどし本人の思いやペースにあわせるように支援しています		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋については施設に看護師を雇い入れ、病院への上申や管理をしてもらっています。服薬は複数名で確認した上で行っています。症状や薬剤については適宜看護職員による説明や伝達を行っています		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の整理や料理の下ごしらえ、裁縫など入居者それぞれできることを行ってもらい役割を見出してもらえるようケアを行っています。施設内でのレクリエーションにとどまらず、地域やなじみのある場所へ積極的に外出し楽しみに特化したケアを提供しています		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園に散歩に出たり可能な限り本人の思いを引きし職員主導ではない外出支援を心がけています。昨年度から今年度にかけては、モネの庭での散歩・桂浜荘での入浴・食事や初めての夜間帯外出である高知城での花回路などの出かけています。	毎日の散歩で近所の花を見たり、職員の用事に一緒に出かけたりして、日常的な外出支援に努めている。散歩は一人ずつ同行し、車いすの方も出かけている。遠くに行けなくても、庭の畑作業を外に出て見物したりして、外気に触れる機会をつくっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な方には本人に管理してもらっていますが殆どの利用者は施設の金庫にて管理しており外出時やイベントなどの時には好きなものを買ってもらえるように支援しています		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の手紙が来た時には読めない方には本人の了承を得た上で職員と一緒に代読しています。各室に電話がひけるようになっていますが現在の所利用はありません。手紙や電話の希望があれば希望に副うように支援しています		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共有スペースに花を活けたり、歩行などの障害物にならないようにしています。また、共有スペースには調理台がある設計上食器などの不快な音を響かせないように使用時には配慮しています。また、共有スペースにはイベントや外出時に撮影した写真を貼っています	壁には行事や外出時の写真を貼って、共通の話題が出やすい工夫をしている。窓からの彩光は適度であり、ソファーやいすを歩行の邪魔にならないよう配置し、くつろげる空間を作っている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子になど入居者一人ひとりが思う場所で過ごしてもらえるようにしています。気の合う入居者同士の会話の橋渡しや会話が弾むよう環境を設定する事も行っています		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物品の搬入はもちろん、この施設での思いでが想起できるような写真や絵を飾っています。金銭的に家具の購入が困難な方には職員や近隣に協力を求め寄付してもらう体制を作っています	畳敷きの部屋と、床の部屋があり、それぞれ、家族の協力を得て馴染みのあるタンスやベッドを持ち込み、写真や人形など愛着のある品々で部屋を飾り、個性のある居室になっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには手摺りを設置しています。居室の家具の配置には本人の思いを尊重しつつ、本人の行動パターンなどを把握しながら家具の配置などを行っています。		

ユニット名:

十字星

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を素に日々のミーティング、施設内研修会などで実際のケアに活かせるように共有し実施出来るようにしています。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会させて頂き、地区での毎月の清掃活動やお祭りなどのイベント・地区の防災委員会などの集まりにも参加させて頂き対話や交流が深まるようにしています。 また、運営推進会議には民生委員に参加してもらい意見をお伺いしています。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	清掃活動、畠の栽培等には可能な利用者も共に参加させて頂き、利用者が地区の方と会話が出来るように支援しています。 施設内でのイベント時に大正琴などの披露の場を設けています。地区の防災会議に定期的に出席しています。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営の状況や入居者の近況などを報告し、参加している市職員・民生委員・地区代表・ご家族様から意見をもらい日々のケアに活かしています。代表者や代理が必ず参加し、運営上の問題点等も報告しています。なお、ご家族様には後日議事録を送付しています。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難ケース等は施設内で解決しようとせず適宜関係機関に連絡し相談、アドバイスを頂いています。 今年度は介護保険課や各関係機関以外に成年後見人サポートセンターへの相談もさせて頂きました。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設外の研修には順次可能な限りの参加しています。施設内勉強会にて以前作成したパワーポイントを適宜活用しながら職員に講師になってもらい発表をする研修なども取り入れています。		

7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての研修会には順次参加しています。施設内研修会などで事例検討会やパワーポイントを活用したりして虐待に繋がらないような支援を目指し研修を行っています。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度については現在対象となる利用者様がいらっしゃる実践を通して学んでいます。職員には事例をもとに必要性や手続きについて説明しました。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の目的や内容、解約・賠償責任・緊急対応などを分かりやすく理解出来るよう説明を行い、理解していただいた上で同意を得るようにしています。また、随時質問などを受けた際には再度分かりやすく説明をしております。</p>		
10	(6)	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議を適宜開催、面会時などに積極的に職員から話し掛け、頂いた意見などに関しては適宜職員に伝達し改善に向けて具体的な取り組みとして運営を行うようにしています。運営会に参加されなかった家族には後日議事録を送付しています。面会時に閲覧できるように議事録を入り口に貼りだしています。直接言い難い家族・入居者のためにユニット入り口にはご意見箱を設置しています。</p>		
11	(7)	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b></p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝のミーティングや業務委員会などで検討しています。また、適宜職員からは個別に意見交換ができるように日々コミュニケーションを図るように努めています。</p>		
12		<p><b>○就業環境の整備</b></p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者として就任以来、法人全体で給与水準を見直し、適正化のため南十字星の給与を上げ、また介護福祉士を中心に正職員化を行ってきた。労働時間についても夜勤時間の改正ややりがいのある職場作りを行ってきた。また全職員の面接等を通して勤務状況を把握し、人事評価体制確立に向けて努力している。</p>		

13	<p><b>○職員を育てる取り組み</b></p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>2年前から職員個々人がパワーポイントで見学者や実習生に職場の紹介や事業の特色を説明できるように育ててきた。その上で法人内の研修は今年から南十字星も含めて、教育委員を作り毎月の研修体制になった。また法人外の研修も従来の必要な研修のみの体制から、力量のアップや向上心をもてるような研修への参加を促しだした。その上でのオンジョブトレーニングに努めている。</p>		
14	<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b></p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>東部地域グループホーム連絡会のメンバーである近隣のグループホームと連携をとり見学者の受入れや意見交換・情報交換の場を立ち上げています。介護だけでなく医療機関との連携もとり見学の受入れや情報・意見交換などを行っています。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初回面接時より、入居者様に分かりやすく説明を行い、ご本人の意向をしっかりと受け止め要望に沿って生活ができるよう話し合い信頼関係を深めるようにしています。</p>		
16	<p><b>○初期に築く家族等との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初回時より充分時間をとり今後の関係性を深める努力をしています。入居者本人のみならず他の家族の事も出来る範囲で相談にのり可能な限り家族の悩みが軽減できるよう努めています。</p>		
17	<p><b>○初期対応の見極めと支援</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時にはその内容を見極め緊急性のある事柄については早急に関係機関との連携をとるようにしています。</p>		
18	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b></p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人と共に料理をしたり、洗濯物をたたんだり何らかの役割をもつていただき、「共に暮らす」という考え方にに基づき介護のみを提供する施設ではないようにしています。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の状態について連絡・報告し話し合いを行い家族様への協力も依頼し共に支えあうように支援しています。イベントへの参加や外泊などお願ひしています。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>職員からの提案による外出だけでなく、本人の生活歴や希望に由来した外出支援を行っています。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>他の入居者同士が共に会話したり一緒に過ごせる場の提供などを行い、間をとりもつ支援などを行っています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>長期入院時に戻れなくなった方の復帰については待機待ちの最優先位にする可能性を探ったり、身寄りのない方については精一杯フォロー・支援を行っています。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意向を聞くようにしています。言語でのコミュニケーションが出来ない方に対しては表情やしぐさなどにも目配りしています。また、生活の中で聞きえた意向などは可能な限り実現できるような話し合いを行っています。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族や主治医など関わる方からの情報だけでなく日常生活の中から出てきた言葉などからも情報を重々し職員が共有できるように努めています。</p>		

25		<p><b>○暮らしの現状の把握</b></p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>マニュアル化されたような日常生活ではなく本人の体調や思いにあわせた過ごし方が提供できるように総合的に本人の能力を分析・評価できるように努めています。</p>		
26	(10)	<p><b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b></p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>課題分析は職員全体から情報収集を行うと共に家族・本人からも意見を聞き計画を立てています。また、定期的のみに検討するのではなく入居者の心身の変化に伴い適宜計画の見直しをしています。</p>		
27		<p><b>○個別の記録と実践への反映</b></p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケア内容に添って実施し具体的に客観的にありのまま記録に残し継続した介護が適切に出来るようにしています。また、気づきや工夫などはその都度話し合い、継続して実施する事で状態の改善に繋がるようにしています。</p>		
28		<p><b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b></p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族の希望や入居者の状態により病院受診は職員が同伴しています。介護保険の代行や家族には分かり難い手続きの際には助言したり代行可能なものに関して希望があれば代行しています。</p>		
29		<p><b>○地域資源との協働</b></p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の保育園や町内会・防災会などと連携を密にし地区活動に参加しています。津波時の避難場所として地域にも認識され、昨年の東日本大震災時の避難警報が流れた際には保育園児以外にも地域住民の方が避難してきていました。</p>		
30	(11)	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b></p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期受診などの際には出きる限り職員同行しており、主治医に申し出たいことがある場合には時として窓口になり希望を伝えるようにしています。また、同行しない受診に関しては日々の状態を手紙などに記載し主治医と施設が関係が取れ本人にとり適切な医療が受けるように努めています。</p>		



31		<p><b>○看護職との協働</b></p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護のみならず、月曜日から金曜日までは看護師を雇い入れしています。夜間急変時には提携病院・訪問看護・当施設看護師のいずれかに連絡できる体制を整えています。</p>			
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b></p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>早期発見・治療に努め入院時にも早期退院が出来るように常に情報交換を行える体制を整えています。</p>			
33	(12)	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に説明をしていますが、想定される場合には再度説明を行い同意を得るようにしています。終末期での状態によっては協力病院以外でも家族の希望にあわせ連携を取れるように努めています。</p>			
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルを配備し適宜目を通すように周知しています。また、施設外での勉強会などにも積極的に参加させてもらい、施設内でも周知できるように努めています</p>			
35	(13)	<p><b>○災害対策</b></p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災訓練は定期的を開催しています。マニュアルも配備しており適宜目を通すように周知しています。また、運営推進会議などで防災の話を行い民生委員や地区代表の方から災害時の協力体制などについても話をしています</p>			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	<p><b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b></p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの人格・尊厳・プライバシーに配慮したケアを実施しています。朝のミーティングや担当者会議以外にも職員間で振り返りが出来るようにしてその都度話し合い同質のケアが提供できるようにしています。</p>			

37		<p><b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>言葉による表出のみならず表情や態度のようなノンバーバルによる表出に留意し本人の思いや希望をケアに組み入れるように取り組んでいます</p>		
38		<p><b>○日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>施設や職員の都合に合わせたケアの提供ではなく個性を重視し本人のペースに合わせた柔軟な対応を優先しケアを提供しています。</p>		
39		<p><b>○身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>衣類の購入時には家族の意見だけでなく可能な限り本人と一緒に購入しに行くようにしています。散髪は外部からの訪問であるが、美容院で行いたいかたには美容院まで行くようにしています。</p>		
40	(15)	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>過去の経験を生かし調理や味付けなど本人の出来る部分を職員と共に行っています。本人の希望があれば外食も積極的に行っています。</p>		
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b></p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>嚥下状態に合わせてロミや刻み食など柔軟に対応しています。また、利用者の希望なども積極的にメニューに取り入れるようにしています</p>		
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b></p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の口腔ケアに加え、定期的な歯科の往診を受け診断、治療、アドバイスを貰うようにしています</p>		
43	(16)	<p><b>○排泄の自立支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、チェック表を用いて観察・記録しています。日中は出来るだけトイレで排泄しオムツを着用しないよう支援しています</p>		

44		<p><b>○便秘の予防と対応</b></p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>精神科薬の副作用がある事も認識し下剤を全て抜薬する対応はとらず一人ひとりの状態に合わせ飲食物、運動のみでの対応の可否について検討しています。場合によっては医療機関への交渉や相談を行っています</p>		
45	(17)	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b></p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>本人の意思に沿って入浴支援を行っています。入浴時間や毎日入浴も可能な限り柔軟に対応しています</p>		
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b></p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居者のその日の体調・状態・希望にあわせて休息を取ってもらっています。夜間帯の中途覚醒にも直ぐに再入床を促すのではなく必要に応じて飲み物を出すなどし本人の思いやペースにあわせるように支援しています</p>		
47		<p><b>○服薬支援</b></p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方箋については施設に看護師を雇い入れ、病院への上申や管理をしてもらっています。服薬は複数名で確認した上で行っています。症状や薬剤については適宜看護職員による説明や伝達を行っています</p>		
48		<p><b>○役割、楽しみごとの支援</b></p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>洗濯物の整理や料理の下ごしらえ、裁縫など入居者それぞれできることを行ってもらい役割を見出してもらえるようケアを行っています。施設内でのレクリエーションにとどまらず、地域やなじみのある場所へ積極的に外出し楽しみに特化したケアを提供しています</p>		
49	(18)	<p><b>○日常的な外出支援</b></p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>近隣の公園に散歩に出たり可能な限り本人の思いを引きし職員主導ではない外出支援を心がけています。昨年度から今年度にかけては、モネの庭での散策・桂浜荘での入浴・食事や初めての夜間帯外出である高知城での花回路などの出かけています。</p>		

50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b></p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理可能な方には本人に管理してもらっていますが殆どの利用者は施設の金庫にて管理しており外出時やイベントなどの時には好きなものを買ってもらえるように支援しています</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b></p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人宛の手紙が来た時には読めない方には本人の了承を得た上で職員と一緒に代読しています。各室に電話がひけるようになっていますが現在の所利用はありません。手紙や電話の希望があれば希望に副うように支援しています</p>		
52	(19)	<p><b>○居心地のよい共用空間づくり</b></p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関や共有スペースに花を活けたり、歩行などの障害物にならないようにしています。また、共有スペースには調理台がある設計上食器などの不快な音を響かせないように使用時には配慮しています。また、共有スペースにはイベントや外出時に撮影した写真を貼っています</p>		
53		<p><b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b></p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや椅子になど入居者一人ひとりが思う場所で過ごしてもらえるようにしています。気の合う入居者同士の会話の橋渡しや会話が弾むよう環境を設定する事も行っています</p>		
54	(20)	<p><b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b></p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>なじみの物品の搬入はもちろん、この施設での思いでが想起できるような写真や絵を飾っています。金銭的に家具の購入が困難な方には職員や近隣に協力を求め寄付してもらう体制を作っています</p>		
55		<p><b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b></p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>共有スペースには手摺りを設置しています。居室の家具の配置には本人の思いを尊重しつつ、本人の行動パターンなどを把握しながら家具の配置などを行っています。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない